

明日にむかって

発行 社会福祉法人陽光会 編集「明日にむかって」編集委員会 発行日 2012年7月30日
住所 東京都板橋区大谷口上町23-1 ☎03-3956-1068(陽光保育園)

68号

6月18日、心待ちにしていた陽光保育園の60年を綴る記念誌が発刊となりました。読んでいただいた方から、お礼の電話やお便りが寄せられています。「大谷口の地域に保護者と保育者との協同で子どもを大切に育てる保育・教育の実践活動を広げてこられた皆様に敬意あるのみです」。講師として来てくださった先生から「どんな苦難があっても希望を持ち、ひまわりのように明日に向かって手を取り進んでいく。陽光保育園はみんなの光溢れる保育園ですね。コンサートに来ていただいたギタリストの方です。主任として園を支えてもらったHさんからは「中身がはちきれそうなくらいぎっしり詰まったすばらしい記念誌に仕上がっていますね。長い間の積み重ねや関係者の力の結集で完成した記念誌。私にとっても珠玉の一篇となりそうです。編集委員の皆さんのご苦労に感謝申し上げます」。みなさんの暖かい励ましの言葉に、陽光を愛し、育ててくださったのだと思うと、胸が熱くなります。(H・T)

保育をめぐる情勢

拡大版

税と社会保障の一体改革修正法案、衆議院で可決

どうなる!?

子ども・子育て新システム

去る6月26日、衆議院本会議で、民主・自民・公明の3党合意により、消費税増税法案とともに一部修正された「子ども・子育て関連3法案」が強行採決されました。その「3党合意」による修正案には、この間の保育運動により、児童福祉法第24条の「市町村の保育実施義務」が残され、民間保育所については市町村が委託費を支払うことが盛り込まれていますが、保育を売買されるサービスとし、市場化する方向は変わっていません。全容のわかりづらい「新システム」修正法案について緊急のお知らせです。

児童福祉法第24条は残されたものの……

修正された児童福祉法第24条を見てみると、その第1項に次のようにあります。

「市町村は、この法律及び①子ども・子育て支援法の定めるところにより、保護者の労働又は疾病その他の事由により、保護者の監護すべき乳児、幼児、その他の児童について保育を必要とする場合において、②次に定めるところによるほか、当該児童を保育所（中略）において保育しなければならない」（①と②は傍線は筆者）

①「子ども・子育て支援法の定めるところにより」とされているので、保育所を利用する場合、保育の必要性の認定とともに、保育必要量の認定を受けなければならぬことになる。つまり「保育に欠ける認定」

「次項」とは、新しく設けられた第24条第2項のことです。「市町村は前項に規定する児童に対し、（中略）認定子ども園（中略）又は家庭的保育事業等（中略）により必要保育を確保するための措置を講じなければならない」。結局、保育所と認定子ども園や保育ママ、小規模保育を並列化し、そのどこかに入所できればよしとする内容に思えてなりません。

待機児童の解消は企業におまかせ……!?

児童福祉法第56条の2の施設整備の国庫補助の規定には、修正前と同じく「保育所を除く」と明記されています。これは、今後保育所には施設整備の補助はしないということ。さらに、同第56条の8では、株式会社等を認可する際に、運営を継続的かつ安定的に行うことができる能力を有する条件のもとに、市町村から設備の貸付、譲渡することも可能であることが盛り込まれています。ますます保育の市場化が加速する内容で、大問題です。

今後の課題

そもそも待機児童解消が目的とされている「子ども・子育て新システム」ですが、このままでは従来の保育所はなくなり、小規模保育や家庭的保育などがその受け皿になっていくことが危惧されます。当分の間、民間保育所は自治体の委託ということになっていくが、あくまで「当分の間」にすぎません。そして何より、複雑怪奇でわかりにくいこの新システムが国民から受け入れられるとは思えません。

北町保育園

現在参議院で審議中のこの法案が、いかに矛盾に満ちたものかをあぶりだし、よりよいものとしていくためには、今後も運動は必要です。待機児童解消をスピードをもって進めるためには、現行の認可保育所の増設こそが近道だと思えてなりません。(北町保育園園長 高田礼子)

思いはひとつ — 「いりません！ 保育を産業化 子ども・子育て新システム 5・13 みんなの保育フェスティバル」



五月晴れの5月13日、全国から保育関係者や子ども連れの保護者ら6000人が明治公園に集い、新システム関連法案の廃案を求めました。陽光会職員も大勢参加しました。会場には17のテントブースがあり、学習会や交流会、展示など多彩な企画が催されました。中央ステージは民族歌舞団荒馬座の力強い太鼓が始まり、替え歌やダンス、寸劇など、どれも新システム反対の気持ちを表現していました。開会あいさつ後、いろいろな立場からの訴えがありました。

●企業の保育園は…… なかでも心に残ったのは、埼玉の私立保育園園長のお話でした。「保育園には子どもの育ちを支えながらやってきた文化があるはず。企業が入ると、その文化はどうなるのか」と、東京のある企業の保育園を紹介されました。「多様なニーズに応えるために、入園はいつでもよく、朝食350円、夕食600円、おやつ150円、入浴シャワー料として300円。子どもの育ちや親の育ちをどう支えるかということはいささかありません。こんな新システムは絶対に許すわけにはいきません。全国で運動が広がっています。みなさん一緒にがんばりましょう」という力強い提案でした。

●福島の保育園では…… 福島の保育士さんは、原発事故により放射能に汚染された地域での過酷な体験を語られました。子どもたちは戸外活動が制限され、運動会は小学校の体育館を借り、遠足、散歩、砂遊び、プール遊びなどは全部できなくなり、室内遊びを余儀なくされていること。毎日園庭の放射線量を測って市に報告しているのに除染は進まず、放射性物質を恐れながらの食事のことなど、話を聞いて涙が止まりませんでした。

「子どもたちも保護者も、一人ひとりのケアを丁寧にあげたい」と、保育士さん自身も被災者なのに、頭が下がります。そして最後に「今まで国が進めてきた規制緩和と政策で、子どもを守る、命を守る、とくに福島の子どものことを守ることができるのでしょうか。今の保育制度を充実させ、最低基準を引き上げを求めて私たちはしっかり運動を進めていかなくてはならないと思います」とまとめていただきました。

いろいろな立場からの訴えはどれも切実で、「公的制度の解体は許さない、絶対に許してはいけない」という怒りの声いっぱいでした。

●「怖くて子どもが産めない……」その後、明治公園から代々木公園までパレードしました。「何でもオプションになって、今より保育にお金がかかるのでは心配。消費税が上がり、新システムも導入されたら、怖くて子どもが産めない」と言うお母さんがいました。少子化対策でもある新システムで、こんな不安を抱かせてよいのでしょうか。汗をかきながらパレードに参加していたお母さんの姿からは「絶対に新システム導入はさせたくない。我が子を守る」という思いが伝わってきました。「新システム関連法案の廃案を求め、すべての子どもの権利と、すこやかな成長が保障されるよう運動を広げよう」と6000人がそこを一つにした素晴らしい集会でした。

●今後とも署名のご協力よろしくお願ひいたします

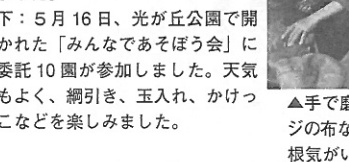
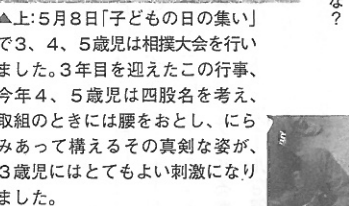
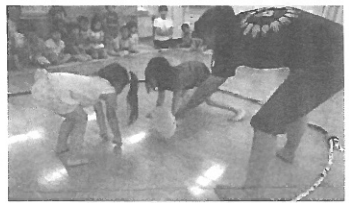
問題だらけの「子ども・子育て新システム」関連法案を廃案にするために全国規模で署名に取り組んできました。陽光会でも理事、父母の会、後援会、職員で取り組み、みなさまのご協力で目標をはるかに超え3,364筆が集まりました。ありがとうございます。そして全国では100万筆を超えました。しかし先日、修正法案が消費増税法案とともに衆議院で可決されました。このままでは「日本の子育ては自己責任で」ということになり、保育予算を増やすためには消費税を増やすしかない制度となってしまいます。さらに署名が必要。今後ともご協力よろしくお願ひいたします。(保育士 及川悦子)

『陽光保育園創立60周年記念誌 明日にむかって』が計画から3年を経てようやく刊行に至り、去る6月16日、陽光保育園で「感謝のつどい」を開催しました。執筆者はもちろん、陽光会理事・評議員、職員など、総勢約80名が集まりました。懐かしい顔ぶれも揃い、記念誌発行を喜びました。

戦後まもないころの青空保育から始めて、60年をかけて積み重ねてきた保育の記録です。「保育」を前面にだしながらも、保育を支える大人たちのメッセージもたくさん綴られています。保育関係者だけでなく、これから子育てする若い世代にもぜひ読んでいただきたい1冊になりました。大勢のみなさまにご購読いただくと幸いです。

発行：社会福祉法人陽光会 頒布価格 2,850円＋送料実費
A4判変型/カラー46頁・モノクロ202頁
お申込み・お問合せ
陽光保育園 TEL 03-3956-1068 / FAX 03-3956-9862

北町保育園



▼5歳児クラスは6月5日、天覧山と多摩山へ。自然の中を気持ちよく歩きました。岩場も坂道もどろん登り、去年より体力をつけて大きくなった5歳児です。



▲4歳児は4月19日、5歳児といっしょに日光が丘公園へ。芝生広場を探索し、木登りをしたり、しろつめ草を摘んで楽しみました。



▲泥団子に白いサラサラの砂をかけ、根気よく手で磨く。素敵な団子ができるかな？



▲上：5月8日「子どもの日の集い」で3、4、5歳児は相撲大会を行いました。3年目を迎えたこの行事、今年4、5歳児は四股名を考え、取組のときには腰をおとし、にらみあって構えるその真剣な姿が、3歳児にはとてもよい刺激になりました。

下：5月16日、光が丘公園で開かれた「みんなであそぼう会」に委託10園が参加しました。天気もよく、綱引き、玉入れ、かけっこなどを楽しみました。

陽光保育園

▲泥団子に白いサラサラの砂をかけ、根気よく手で磨く。素敵な団子ができるかな？

▲頭張って磨き続けると、こんなに光る団子の出来上がり！頭張った自分だけの宝物です。

社会福祉法人陽光会近況◎新年度を迎えて

新年度を迎えて、ひとつ大きくなったことがうれしくて、何をやるにもはりきっている子どもたちの姿をご紹介します。

板十小あいキッズ

新年度を迎えて、児童クラブは71名在籍。1年生の入学が増えたこともあり、一般登録は1日の参加者が100名を超える日が昨年度より増えていきます。子どもたちはドッジボールやサッカー、砂遊びなどを楽しんだり、部屋の中でのんびり絵を描いたり、漫画を読んだりと思いに過かっています。スタッフの数も増え、規模が大きくなっていますが、子どもたちの豊かな放課後の遊びを充実させたいという気持ちは変わりません。

室内遊び

—その2 幼児



ストーリーゲーム

3歳児になると、さらに「ごっこ遊び」は発展していきます。室内でも、ストーリーのあるごっこ遊びは大好きです。特に女の子は、おうちごっこ、おままごとが大好きです。テーブルの上にお皿や食器をいっぱい並べ、エプロンを着け、おなべをかきまわしながら、語り合っています。いっぱいのお母さんを取りです。



冒険心と不安感が同居した心は、絵本の好みにも反映されてきます。例えば、次のような絵本が好きなようになってきます。

『はじめてのおつかい』(しみずみちお作、山本まつ子絵)……お母さんが急な用事で出かけることになり、3歳の女の子が初めてひとりでお留守番をします。自信と不安がたっぷりです。

『はじめてのおつかい』(筒井頼子作、林明子絵)……5歳になった女の子が初めて近くのパン屋さんへ買い物に行きます。200円を持って牛乳を買いにいけます。ドキドキです。

「お父さん」と呼びかけて、「なんだい、お母さんなどと返しています。とてもかわいらしいです。」

4歳に近づいてくると、おもしろいことに冒険心と同時に不安感も増してくるようになります。言葉が豊かになって、おしゃべりが盛んになり、笑い転げていたかと思うと、いきなりシユンとしたりします。

家の外にも目を向こう



子どもは遊びの天才です。何もなしていないからでもいろいろな遊びを生みだします。ここでは日光会の保育のなかで大切にしている活動のなかでもとくに子どもたちの好きな遊びを中心に紹介します。

しかし「入らないで」と言われた子は、それを仲間はずれにされたと思ってしまうのです。こういう場面では、少し大人がとりもってあげるといいでしょう。

親子でいっしょにあそびましょう

●陽光保育園●

2012年度は、保育園の子どもたちが日ごろ遊んでいる「砂遊び」と「リズム遊び」を主に計画しました。これまでに参加されたみなさまから「家庭ではできないことができてよかった」「とても楽しかった」など、たくさんの感想をいただいています。公園ではできない遊びが体験できますよ。親子で気軽に遊びにきてください。無料です。

場所 陽光保育園(板橋区大谷口上町23-1) ☎ 3956-1068
時間 午前9時30分～11時(赤ちゃんは10時30分まで)
対象 0歳児～就学前のお子さんと保護者

- *参加ご希望の方は実施予定日の3日前までにお電話ください。
- *動きやすい服装で、タオルと替着えをご持参ください。
- *お天気により変更する場合があります。
- *0歳のおさんは、室内にて、赤ちゃん体操・あやし遊びなどでゆったり過ごします。

2012年度◆今後の予定

7月17日(火)(終了)	8月21日(火)	9月11日(火)
10月30日(火)	11月13日(火)	12月11日(火)
1月29日(火)	2月19日(火)	3月5日(火)

- * 9月: 看護師が「健康」について相談を受けます。
- * 10月: 栄養士が「食」について相談を受けます。



お父さんの出番です!!

遊びから見えてくるもの

奏太には三つ上の兄・俊介がいます。家では何をしてもいつも一緒にいるので、おのずと俊介と同じ遊びをしています。休日や、保育園から帰ってきてからの遊びといえば、ポケモン、イナズマイレブのカードゲームやDSがほとんどで、最近はお話のほうについていけないくらいレベルに達しています。

そんななか、唯一「一緒にやろう」と誘ってくる遊びが、家の中でやる少し柔らかいボールを使ったサッカーです。俊介がサッカーをやっている影響か、イナズマイレブの影響かわかりませんが、奏太はサッカーが好きなのです。

やり始めた当初は、俊介・奏太チームvsパパの2人対1人で対戦し、すこし手加減していたのですが、だんだん慣れてくるにつれて、手加減抜きでもいい勝負になり、2人対1人だとなかなか点を入れさせてもらえなくなりました。こうなると2人から「パパ弱い」と言われるあります。……。「これではいかん」と、最近は一審判で、1対1の対戦にルールを変えました。

奏太は今まで俊介と2人チームだったのが、攻めも守りもすべて1人でやらなくてはなりません。最初は思うようにいかず、「おもしろくない」とか「ずるい」とか言っていたものの、だんだん上手くなっていき、勝負心に火が付いてきたのか、ボールに対する執着心と体はまったブルーは、俊介も「奏太すごい」と認めるほどの力を出すようになってきました。

汗だくになってボールに食らいついていく姿や、点を入れて全身で喜び、逆に点を入れられて本気で悔しがると、普段の奏太からはなかなか見られない表情なので、とても愛らしく感じます。こんな姿を見てみると、さぞかしサッカーが好きなんだろうと思いついて、「奏太、俊介みたいにサッカーチームに入ったら? きつと俊介よりも上手くなるよ!」と言いつつ、決まっていた……。「やんない」とパツパツ断る奏太でした。この他にも、「○○とだった?」「↓」「↑」とこうこうにクールな答えをよくするので、本当はボールを追いかけたいところも熱い心をもっているの、パパは知っています!

(陽光保育園5歳児クラス・奏太の父 関 忍)

ごあんない

男の子は冒険や乗り物が大好き!

男の子の室内遊びは、冒険や戦いが好きになるようになり、乗物や乗り物が好きになることも多い。ブロックで剣やピストルなどを作ったりはじめる。

電車ごっこも、駅名や電車名に詳しい子もでてきて、アナウンスごっこが始まったりします。

- 陽光保育園
 - 運動会
 - とき 10月7日(日) 9時～14時
 - 場所 板橋区立板橋第十小学校校庭
 - 冬のバザー
 - とき 12月2日(日) 10時～14時
 - 場所 陽光保育園
 - 共育講座
 - 「思春期を見通した子育てを」
 - 講師 秋葉英則先生
 - とき 11月17日(土) 16時～18時
 - 場所 未定
- 北町保育園
 - 運動会
 - とき 10月6日(土) 9時15分～13時30分
 - 場所 北町保育園園庭
- 陽光会後援会
 - 納涼会
 - とき 8月24日(金) 19時～
 - 場所 陽光保育園
 - *例年のように一品持ち寄りです。
 - 秋の交流会
 - とき 10月28日(日) 予備日11月4日(日)
 - 場所 中着田

一時保育



◆こんなときに利用ください

- 保護者の就労・求職・通院・職業訓練・通学・看護・介護など
- また保護者の傷病・被災・事故・出産・冠婚葬祭などの緊急時
- 保護者の子育て不安・リフレッシュなど

- 利用日・利用時間など
 - 月曜日～金曜日の9時～17時
 - (土・日・祝日・年末年始休)
 - 1歳以上で、離乳の完了しているお子さんから。ただし、板橋区発行「すくすくカード」(ご利用の方は生後10か月から)。
 - 一日1時間～8時間。(ご希望の時間帯で利用できます)
- お申し込み・お問合せ
 - 直接 陽光保育園へ。
 - (☎03-3956-1068、受付時間10時～17時)
- 緊急時以外は、なるべく利用される10日前までに申し込んでください。
- 事前に面接をしていただき、利用日・利用時間を予約していただきます(親子でおいでください)。
- 利用料その他、詳しくは陽光保育園までお問い合わせください。

「なんかない、お母さんなどと返しています。とてもかわいらしいです。」

4歳に近づいてくると、おもしろいことに冒険心と同時に不安感も増してくるようになります。言葉が豊かになって、おしゃべりが盛んになり、笑い転げていたかと思うと、いきなりシユンとしたりします。

友だちが大好きになる時期なのですが、そのために、あの子は入ってあげないなどといったことが、遊びのなかでも出てくる場合があります。別に嫌いなわけではなく、今はこの何人かで遊びたいのだと主張しているだけなのです。

戦争をめぐりぬけて

四津谷 伸子

和敬保育園は今年の3月に第76回の卒園生が小学校へ巣立ってきました。私は56年間、保育士として保育をしてきました。この間、戦争(第二次世界大戦)中も一日も休まず母子寮の母子や園児たちを守りぬきました。

空襲警報が鳴るたびに園庭の防空壕に退避させることが大事な仕事でした。朝、子どもを預ける母親は、これが最後かもしれないと悲壮な面持ちで別れていき、仕事を終えて迎えにきた母と子は、今日も無事だったと抱き合うのでした。

昭和20年3月10日、B29百数十機による東京大空襲で城東地区一帯は全滅、沢山の人々が殺されました。続いて4月13日夜、再びB29の大空襲で、板橋区をはじめ大塚、池袋の一帯はほとんど焼土と化しました。和敬保育園の裏に爆弾が落ち、加えて焼夷弾が降り注いで、近くの縦の木が燃え上がり、周囲が照明を当てたように明るくなりました。母子寮の母子49名を引率して西台の氷川神社にたどり着き、農家で一夜を過ごして帰ってみると、和敬保育園とその周囲の13軒だけが焼け残っていました。さっそく炊き出しをして、焼け出された町内の人々に、おにぎりとおみそ汁を配りました。

こういう戦争の中で、私は北野高等女学校に通っていました。朝、常盤駅に向かう途中でも、空襲警報が鳴れば工場の防空壕に入れてもらい、学校に着いても勉強どころではなく、避難する毎日でした。

昭和20年8月6日、広島に原爆が投下された。その翌日、司令部に向かう途中、原爆にあい、背中一面被爆して大火傷を負いました。小学校に収容され、葉もなく、赤チンキを塗られていました。東京から捜しにいった父母は、兄の背中に肝油を塗ってあげられなくなり、まさに人間てんぷら状態だったそうです。九死に一生を得て東京に帰ってきた兄のところへ板橋区役所から戦死の公報が届き、本人が直接区役所へ行って、戸籍を復活させました。その兄と、広島の街で二次被曝したと思われる父母も、癌で亡くなりました。

福島原発事故の被害が本当に心配です。私は原水爆禁止全国大会に20年間参加し、「核兵器なくせ」の運動を続けています。子どもたちの未来が平和であることを願っています。(和敬保育園前主任保育士)